

参考2

平成22年度に重点的に取り組む課題の概要

<p>課題名</p>	<p>溪畔林再生のための施業技術の確立</p>
<p>取組の内容</p>	<p>溪畔には、一般に、土石流等に伴う攪乱により多様な森林が成立するが、現状は人工林となっている箇所も多い。こうした箇所の中には、生物多様性の保全の観点から、人工林を混交林や自然林に積極的に誘導していくことが望まれるものもあるが、そのための技術は確立されていない。</p> <p>このため、溪畔に存する人工林について、立地条件に応じ、混交林や自然林に効果的かつ着実に誘導していくための抜き伐り等施業方法の具体的な指針を作成する。</p>
<p>実施項目</p>	<p>① 現地の状況に応じ、人工林の抜き伐り及び自然植生の更新を阻害しているスズタケの刈払い等の作業の実施</p> <p>② 作業後の植生変化等の調査</p> <p>③ 施業方法等の評価</p> <p>④ 評価結果を踏まえた汎用性の高いガイドラインの作成</p>
<p>実施機関</p>	<p>関東森林管理局 森林技術センター</p>
<p>協力機関</p>	

平成22年度に重点的に取り組む課題の概要

課題名	生物多様性保全等のためのニホンジカの効果的・効率的捕獲手法等の開発・実証
取組の内容	<p>九州のほぼ全域において、ニホンジカの食害による農林作物被害や貴重な植物をはじめとする森林植生の消失、野生動物の生息環境・生息地域の著しい劣化・減少が見られ、森林の生物多様性の保全に重大な影響を及ぼしつつあり、早期にニホンジカの頭数調整が必要な状況となっている。</p> <p>このため、九州地域において、県、市町村、猟友会等との連携を図りつつ、ニホンジカの習性・嗜好性、行動パターンを把握した上で、科学的かつ効果的・効率的な捕獲方法等を開発する。</p>
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ① シカの生息密度、移動状況、行動パターン等の把握 ② 効果的・効率的な捕獲柵の開発 ③ シカの生息域拡大防止のための行動規制柵の開発 ④ 低コストの防護柵の開発 ⑤ 捕獲マニュアルの作成
実施機関	九州森林管理局 森林技術センター
協力機関	<p>独立行政法人 森林総合研究所 九州支所</p> <p>宮崎県林業技術センター</p> <p>宮崎大学</p>